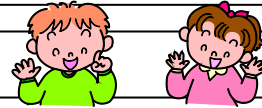




子どもたち一人一人が笑顔ですごす学校をめざして



音楽会の見方・楽しみ方

10月30日(金)、今日は音楽会の児童観覧、31日(日)は保護者観覧です。限られた時間ですが、子ども達はこの日に向けて練習を積み重ねてきました。音楽会の本番の様子は、後日お伝えいたします。今日は保護者観覧前に、「音楽会の見方・楽しみ方」をお知らせいたします。



1 がんばったことを認めほめることで、子どもは前向きになります。

子どもたちなりに練習を積み重ねたり、課題を乗り越えたりしてきています。がんばったことを認めてもらえることは、子ども達の「自己有用感」を高めます。

「ぼくってなかなかやるなあ。」「はじめはうまくいかなかったけど、あきらめずにがんばったらうまくいくんだな。」という思いをもたせることが、自己有用感の昂揚につながります。自己有用感が高まった子ども達は、自分に自信をもち、また次のめあてに向かって前向きにチャレンジしていくファイトをもつことができます。(反対に自己有用感が低いと「どうせ僕は何をあっても駄目なんだ。」と自信をなくし、何事にも前向きに取り組むことが難しくなってしまいます。)音楽会は子どもにも自信をもたせるチャンスです。



2年生の練習風景

2 学年の発達段階をご覧ください。

1年生から6年生までで子ども達は大きく成長します。大きく分けると1年低学年は慣れる段階、中学年は伸びる段階、高学年は深める段階といえます。音楽会では1年生から6年生までの演技を見ることができます。どの学年もそれぞれ工夫を凝らし一生懸命やっていることは勿論です。1年生から6年生までそれぞれの発達段階がありますご自分の子どもさんの学年はもちろんですが、それ以外の学年の様子もご覧いただき、子ども達が小学校生活の中で1年1年積み重ね

ていくことはどのようなことなのかを感じ取っていただけたらと思います。

子供の成長を一本の道筋としてとらえることで、今、大切にしなければならないことはつきりしてくるようになります。



3年生の練習風景

3 他の子や学年をほめることで、人の良さを素直に受け入れる子にします。

誰でも自分がほめられるとうれしいものです。では、「〇〇君、よかったね。」「〇年生はすばらしかったね。」と他の子や学年をほめることは子どもにどのような効果を与えるのでしょうか。いろいろなケースがあるでしょうが、「〇〇さんですごいんだな。」と素直に思える子どもは、「よし、ぼくもそれをめざしてがんばろう。」人の良さを素直に認め、自分自身の中に取り入れていこうとする子は、間違いなく大きく成長出来る子です。保護者の方が他の子のよさを話題にしていただけると、子ども達は人の良さを素直に認めるライフスタイルを身に付けていくことができます。



1年生の練習風景



音楽会は大切な学校行事の一つです。学校の教育活動は教育的な意義やねらいをもって行われます。音楽会を通じて、また一つ成長していきますように、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



4年生の練習風景



5年生の練習風景



6年生の練習風景

